

令和5年10月24日（火）に高校の同級生4人で徳川ゆかりの地である浜松城等へ視察に行ってきました。

1 三方ヶ原古戦場

三方ヶ原の戦いは、元龜3年12月22日（1573年1月25日）に、遠江国敷知郡の三方ヶ原（現在の静岡県浜松市北区三方原町近辺）で起こった武田信玄と徳川家康・織田信長の間で行われた戦い。信長包囲網に参加すべく上洛の途上にあった信玄率いる武田軍を徳川・織田の連合軍が迎え撃ったが敗退した。



「三方ヶ原の戦い」の死傷者数は、武田軍が約200だったのに対し、家康・信長連合軍は約2000。鳥居忠広や成瀬正義、本多忠真など有能な家臣たちが討ち死にする大損害を被ります。家康自身も追い詰められて、身代わりとなった家臣が時間を稼いでいる間に、わずかな供回りだけを連れて浜松城に逃げ帰りました。この敗走は、徳川家康の生涯においても最大の危機だったといわれる。

浜松城に戻った家康は、すべての城門を開いてかがり火を焚き、湯漬け飯を食べて眠りについたそう。敗れてもなお余裕があるフリをして将兵を安堵させ、城内に潜伏しているであ

ろう間者を通じて武田軍を警戒させるためのパフォーマンスです。

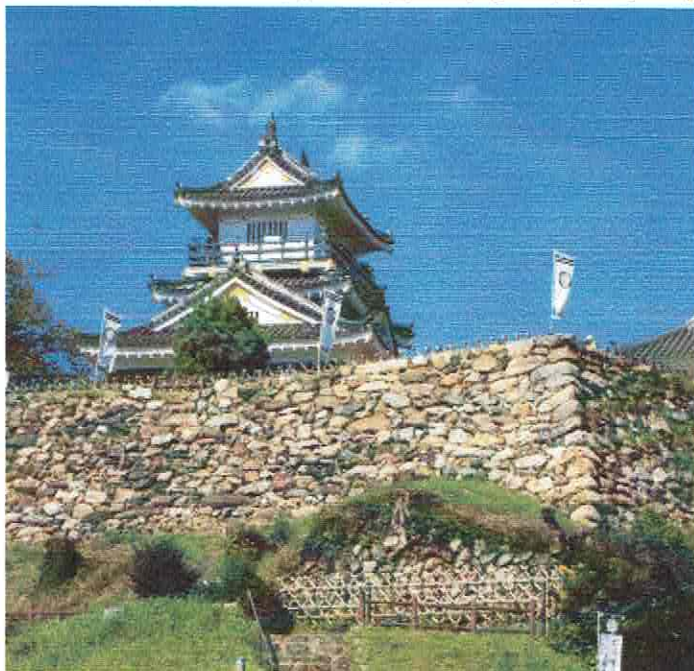
これは『三国志演義』にて、蜀の諸葛亮孔明が魏の司馬懿（しばい）に敗れた際におこなった「空城計」になったもの。実際に、浜松城まで追撃してきていた武田軍の山県昌景は、攻撃をせずに退却しています。

2 浜松城

永禄 11 年（1568）、三河から東進し、今川領の制圧を開始した徳川家康。家康は、駿府に攻め込んできた武田信玄の侵攻に備え、遠州一帯を見渡せる三方ヶ原の丘に着目した。天下を盗るためには、まず信玄を倒さなければならないと判断した家康は、元亀元年（1570）、岡崎城を長男の信康に譲り、三方原台地の東南端に浜松城を築城、駿遠経営の拠点とした。

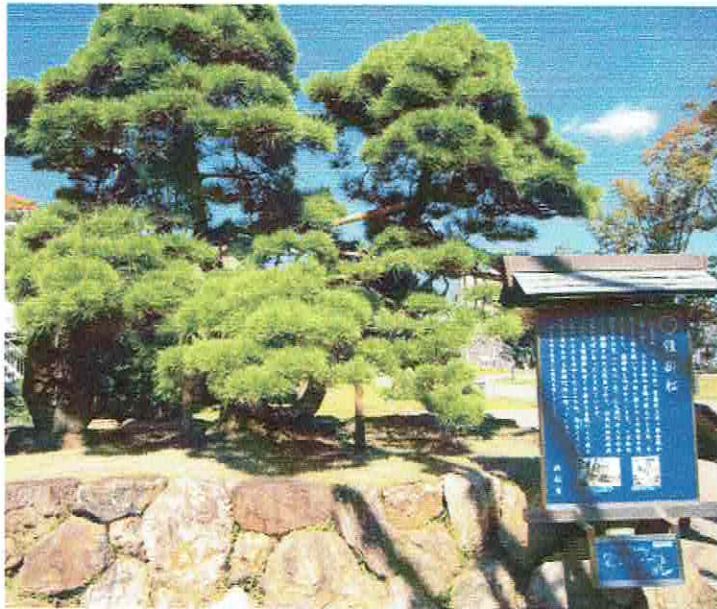
徳川家康は 29 歳～45 歳までの 17 年間を浜松城で過ごした。有名な姉川、長篠、小牧・長久手の戦いもこの期間中の出来事で、特に元亀 3 年（1572）の三方ヶ原の合戦は、関ヶ原の合戦以上の激闘であったと伝えられる。家康にとって、浜松在城 17 年間は、徳川 300 年の歴史を築くための試練の時代だったと言える。

元号（西暦／家康年齢）	戦いの名称
元亀元年（1570 年／29 歳）	姉川の合戦
元亀三年（1572 年／31 歳）	三方ヶ原の合戦
天正三年（1575 年／34 歳）	高天神城の攻略
天正十二年（1584 年／43 歳）	小牧・長久手の戦い



3 鎧掛松

浜松市役所の西側にある「鎧掛松」。三方ヶ原の戦いで敗れ、浜松城に逃げ帰った家康公が、鎧を脱いでこの松に掛けたという伝説から、この名が付けられました。現在の松は 3 代目で、初代の松は浜松城内の堀の近くにあったといわれる。



写真は公園内のあった家康の銅像

4 大河ドラマ館



入館料は70歳以上無料でした。助かった。そのとき頂いた武将名ものです。

夏目広次（ひろつぐ）は、徳川家康の譜代の家臣として活躍しました。中でも、三方ヶ原（みかたがはら）の戦いで、家康の影武者として討ち死にしたことは有名なエピソードとして広く知られている。

永正15年（1518）、広次は夏目吉久の子として三河で生まれる。通称は次郎右衛門で、本名は吉信。夏目氏は信濃発祥の清和源氏満快（みつよし）流が主な族で、その支流がのち

に三河に移り、松平家の譜代の家臣になったと言われる。あの有名な明治の文豪・夏目漱石は広次の子孫だとも伝わっている。

永禄4年（1561）、広次は三河の長沢城攻略で軍功をあげる。永禄5年（1562）の八幡村城攻撃の際、家康が総崩れになった時には、広次は殿（しんがり）を務めて、国府までの間、いくども踏みとどまり奮戦。後に、家康から功績を評価され、備前長光作の脇差を賜ることになる。



左の写真は徳川秀忠の鎧兜の展示です。

右の写真はNHK大河ドラマ「どうする家康」に出ていた武田信玄のパネルです。



左の写真はNHK大河ドラマ「どうする家康」に出ていた徳川家康、築山殿（瀬名）、井伊直政のパネルです。

築山殿（瀬名）は、天文11年（1542）に生まれ（諸説あり）、天正7年（1579）、数え年38歳の若さで没する。

瀬名は、関口氏純（うじずみ、父に関しては諸説あり）と駿河の今川義元の妹の娘として生まれる。つまり、今川義元の姪です。父である関口氏

は、今川義元の重臣でした。

弘治2年（1556）、瀬名姫は今川義元の養女として、今川氏の人質として駿河に滞在していた徳川家康の妻となる。2人の結婚は、政略結婚でした。

2人の間には、永禄2年（1559）に長男・竹千代（のちの信康）が、翌年には長女・亀姫が誕生すつ。

永禄3年（1560）の「桶狭間の戦い」で養父である今川義元が織田信長に敗れ、討ち死にする。その際、家康は岡崎城に戻るが、築山殿や子供たちは駿府に残る。

永禄5年（1562）、家康が、人質交換によって瀬名や子供たちを駿府から取り戻す。それから、岡崎城で元のように暮らし始める。「築山」に居を構えたことから、築山殿と呼ばれるようになる。

元亀元年（1570）、「桶狭間の戦い」後、織田信長の配下となった家康は遠江（とおとうみ）の浜松城に居を移るが、築山殿は信康を後見するため岡崎にとどまる。

参考に、徳川家康の正室。築山殿の実名は不明である。テレビドラマや小説など現代の創作では瀬名の名があてられるが、当時の史料はもちろん、江戸時代前期に成立した史料にも瀬名の名はみられない。江戸時代中期の元文5年（1740年）成立の『武徳編年集成』巻三に、「関口或いは瀬名とも称す」と記載されている。

5 元城町東照宮（引間古城跡）

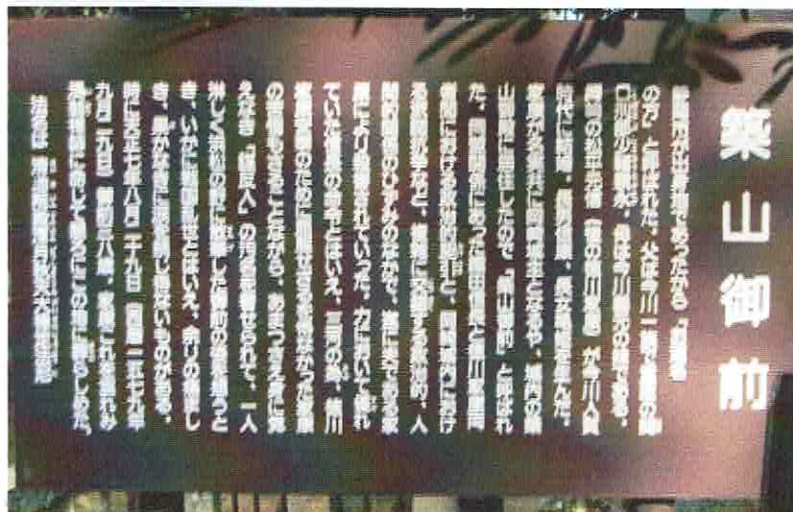


徳川家康公を祭神とする神社で、社殿の扉や屋根に三つ葉葵の紋所が見られる。永禄11年（1568年）に家康公が今川方の拠点であった引間城を攻め、その後城地を拡大し、浜松城を築いた。石の鳥居の横には「曳馬城跡」（引馬城址）と記された石碑ある。

明治19年、引間城跡に創建された元城町東照宮。引間城は家康公が浜松に入ってから浜松城を現在の位置に築くまでの間、生活していた場所で、かつては豊臣秀吉が訪れた城として、二人の武将を天下人へ導いた場所といわれています。現在では、「出世神社」と呼ばれ、多くの参拝者が訪れています。



6 西来院



西来院は、曹洞宗、高松山と号し、寒巖十三派中月窓派と称す。

月窓義運禅師が正長元年（1428年）に自力開創し、本尊は釈迦牟尼仏。長藤の寺として親しまる。

西来院には、謀反の疑いから佐鳴湖畔で38歳の生涯を閉じることとなった徳川家康公の正室・築山御前の廟堂（月窟廟）が置かれている。



7 どうする家康 浜松大河ドラマ館のパンフレットから

徳川家康公 年表

浜松城を築城し自力を養える壮年期の十七年を過ごした。

家康浜松城在城期間

- 1542 (天文11年) 三河岡崎城主・松平広忠の長男として岡崎に生まれる。(1歳)
- 1547 (天文16年) 人質として駿府へ向かう途中で連れ去られ、尾張へ送られる。(6歳)
- 1549 (天文18年) 父・広忠が暗殺される。
今川義元の人質となり駿府へ移る。(8歳)
- 1557 (弘治3年) 今川氏の重臣・岡口義広の娘・築山殿と結婚する。(16歳)
- 1559 (永禄2年) 参りて岡崎に帰る。長男・信康が誕生する。(18歳)
- 1560 (永禄3年) 桶狭間の戦いで織田信長が今川義元を討ち取る。(19歳)
- 1563 (永禄6年) 長男・信康が信長の娘・徳姫と婚約。
名を元康から家康へと改める。
三河一向一揆を鎮圧へ。(22歳)
- 1566 (永禄9年) 東三河・奥三河を平定し、三河国を統一。
徳川に改姓し、朝廷から三河守に任ぜられる。(25歳)
- 1568 (永禄11年) 遠江国へ進出し、
武田信玄と駿河・遠江の分割を取り決める。(27歳)
- 1570 (元龜元年) 織田信長の援軍で姉川の戦いに出陣し、浅井・朝倉軍を破る。
岡崎より浜松へ移り、浜松城を築いて本城とする。(29歳)
- 1572 (元龜3年) 武田信玄が遠江国・三河国への侵攻を開始(西上作戦)。
一宮坂の戦い、二俣城の戦いで武田軍に敗北。
三方ヶ原の合戦で武田軍に大敗する。(31歳)
- 1573 (元龜4年) 信玄が病死(53歳)。室町幕府が滅亡。
本多忠勝らに長篠城を攻めさせる。(32歳)
- 1574 (天正2年) 次男の秀康(後の結城秀康)が誕生。
母親は側室の於万の方。(33歳)
- 1575 (天正3年) 織田信長と連合し、長篠の戦いで武田勝頼を撃破。(34歳)
- 1579 (天正7年) 三男の秀忠(後の二代将軍・徳川秀忠)が誕生。
信長の命で正室・築山御前を殺害。
嫡男・信康を自害に五らしめる。(38歳)
- 1581 (天正9年) 武田方の高天神城を攻略し、遠江を完全に平定する。(40歳)
- 1582 (天正10年) 武田氏の滅亡で駿河国を得る。本能寺の変で信長が自害。
「伊賀越え」をして堺から岡崎へ戻る。
信長の死後、甲斐・信濃を奪い、5カ国の大名となる(41歳)
- 1584 (天正12年) 小牧・長久手で秀吉と戦い講和(小牧・長久手の戦い)。(43歳)
- 1586 (天正14年) 浜松城から駿府城へ移る。
秀吉の妹・朝日姫と結婚。大阪城で秀吉に謁見。(45歳)
- 1590 (天正18年) 小田原攻めで先鋒を務める。
秀吉からの移封命令により、江戸城を居城とする。(49歳)
- 1600 (慶長5年) 会津の上杉景勝の征伐へ向かう。
関ヶ原で石田三成らを破る(関ヶ原の戦い)。(59歳)
- 1603 (慶長8年) 征夷大將軍となり江戸幕府を開く。(62歳)
- 1605 (慶長10年) 秀忠に將軍職を譲り、自らは大御所となる。(64歳)
- 1607 (慶長12年) 駿府城を築き、隠居城とする。(66歳)
- 1615 (慶長20年) 大坂夏の陣。淀殿と秀頼が自害し、豊臣家が滅亡する。(74歳)
- 1616 (元和2年) 朝廷より太政大臣に任じられる。
4月17日に駿府城で病死し、久能山に葬られる。(75歳)

大河ドラマ

どうする家康

物語

自らの弱さに歯がゆさを感じつつも、
家臣たちとの絆を深め、一体感あふれる
チーム徳川をつくりあげていく。

貧しき小国・三河にある岡崎城主・松平広忠の子として生まれた少年・竹千代(のちの家康)は戦乱で父を失い、母とも離れ、孤独な毎日を過ごしていた。あるとき、今川家で人質として送られる途中、織田家に強奪され、連れ去られる。明日の運命すら分からない中、青年・織田信長と劇的な出会いを果たし、自らの力で世の中を変えられると教えられる。

さらに父に仕えていた旧臣たちと再会、彼らに松平家(のちの徳川家)再興の思いがくすぶっていることを知る。

そして「桶狭間の合戦」による今川家の混乱の中、家康は家臣たちとともに、三河の城を取り戻すことに成功する。

だが、それは苦労とピンチの始まりでもあった。

領民の一向一揆に悩まされ、さらに戦国最強の武将・武田信玄の脅威にさらされ、「三方ヶ原の戦い」では徳川軍は全滅寸前に追い込まれる。さらに武田は侵略の手を緩めず、家臣団や家族との関係も切り崩そうとする。自らの弱さに歯がゆさを感じつつも、敗戦をバネにして、家康は個性派ぞろいの家臣たちとの絆を深め、一体感あふれるチーム徳川をつくりあげていく。

しかし、「本能寺の変」で目標でもあった信長を失い、絶体絶命の窮地に追い込まれる家康。

人心掌握に長けた戦乱の申し子・豊臣秀吉、精緻な頭脳を持つ天才・石田三成が立ちふさがり、真田昌幸たち周辺の大名たちが足元を揺さぶる。

果たして戦乱の世は、終わりを告げるのか?

この国に未来はあるのか?

どうする家康!

NHK公式ホームページより

今までに訪れたお城(跡)は、昨年12月7日に小牧城、今年4月25日に岡崎城、6月13日に静岡市駿府城跡、9月26日に丹後舞鶴市の田辺城跡、10月8日丹波篠山城跡、10月10日に掛川城、10月24日に浜松城となる。今後は11月6日に姫路城に、11月22日から2泊3日で四国九城巡りツアーに参加し、高松城跡、徳島城跡、高知城、宇和島城、大洲城、湯築城跡、伊予松山城、今治城、丸亀城を訪れる予定です。